せいちょう 成長はつらい

えんちょう こうち たかし 園長 高地 敬

テレビの行かの番組で、「はじめてのおつかい」というコーナーがあったと^艶います。 4、5歳くらいの子どもが一人かきょうだいと一緒に、お母さんに頼まれて買い物に行き、その中でさまざまなドラマがあるというものでした。

あくまでも危険の無いように支援体制を整えているのだと態いますが、毎回、次々と起こる大小の事件に大泣きし、きょうだいやお店の人に支えられながら何とか帰ってきて、お母さんに抱き留められるという、涙を誘い、笑えて、でもハッピーエンドでありました。

が大きくなることを成長と言いますが、心も年齢とともに大きくなるのだと思います。「はじめてのおつかい」では付き添ってリードする大人がいない。だから心にいけれども、無事帰ってくると、たった 1時間弱のことですが、子どもは大きく成長しているのでしょう。決断しないといけないことがあり、いろいろなことを我慢しなければならない。成長するということは痛みを伴うものだと言われます。大人の私たちも、たくさんの失敗をし、心に傷を受けてここまでたどり着きました。

おつかいに行く子どもたちのお母さんは、はらはらしながらモニターを見つめ、売きな感動を持って子どもたちを迎え入れます。子どもたちは10年もたたない内に親からある程度自立(支えなしに動く) し、自律(自分で決める)していくことになります。

モニターはありませんから見ずることはできませんが、子どもたちの自立・自律に ず向けての成長を、信頼する心を持って支えていきたいと思います。